会報 安曇野教育

第６４号

発行所　安曇野市教育会　　発行日　令和元年９月13日
発行人　坂　槙　邦　章　　題　字　川　田　　殖
編　集　会報委員会

鸛鵲楼に登る（かんじゃくろう）

常任委員長　　飯嶋　正成

かつて勤務していた学校の校長先生が、唐の詩人である王之渙が詠んだ「鸛鵲楼に登る」と言う絶句を紹介してくれた。

【原文】
白日依山盡　黄河入海流
欲窮千里目　更上一層楼

【大意】
鸛鵲楼に登ると光り輝く太陽も、西の山々によりかかるように沈んでゆき、
眼下にはとうとうと黄河が東の海に向かって流れ続けている。
この雄大な眺めを千里の彼方まで見きわめようとして、
更にもう一層上へと登ってみるのである。

意味としては大意そのものであるのだが、当時自分なりに、目の前にいる子どもたちは、学習や部活動等においても、もっと分かるようになりたい、もっとできるようになりたいと思っている。

私たち教師は子どもたちのその願いを叶えたいと思いながら、現状に満足せず、教師自身が向上心を持って努力を重ねながら子どもたちに日々関わっていかなくてはいけないと解釈した。

かつて政府による「事業仕分け」と言うものが行われ、その際に「二番ではいけないのですか」という発言が話題になった。その発言の少し前に、ある企業を見学させていただいた際、説明をしてくださった方から、「企業は一番を目指さなくてはいけないのです。二番ではいけないのです。」と熱く語られていた姿との大きな違いを感じた。

教育現場は企業とは違うので、一番を目指さなくてはならないことはない。（もちろん一番を目指して取り組むこともある）しかし、せめて私たち教師は、本来子どもたちが持っている「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という思いに応えられる存在でなくてはいけない。様々な研修や自己研鑽を通して、自らが一層登る努力を重ね、子どもたちのその思いに応える事のできる教師でありたい。

安曇野の先人等に学ぶ会

安曇野市教育会の先輩であり、初代会長の岡村千馬太先生の遺徳を偲ぶと共に、安曇野にゆかりのある諸先輩の生き方に学ぶことを目的に、『安曇野の先人に学ぶ会』が六月十五日(土)に開かれた。

午前に、役員が三郷中萱にある岡村千馬太先生のお墓をお参りし、午後には、松本市城山公園にある岡村先生の碑の前で碑前祭を行った。本会の先輩の方々と役員が参加し、松本市教育会より会長の　　先生も参列してくださった。

会場を南安曇教育文化会館に移動し、約五十名が参加して、会館南庭の務台理作先生と木村素衛先生の碑に礼拝をした。その後、大会議室で学習会を行った。

学習会前半は、安曇野市文書館館長の　　先生より『綴られてきた学校日誌』と題してご講演をいただいた。現在、安曇野市文書館には市内十七校の平成十一年度までの全ての学校日誌が保管されており、豊科四七一点、穂高三三三点、三郷二二七点、堀金二八八点、明科三三二点、総数一六五一点になる。これらの学校日誌は現行の学校教育法及び施行規則では保存期限が五年となっているが、先輩の先生方が廃棄することなく丁寧に保存してきてくださったものである。はじめに　　先生は、本日の『先人等に学ぶ会』の『先人』は「一つ一つの事実を誠実に綴ってこられた先輩方全ての先生方のことです」と述べられた。その学校日誌の中から『Ｂ２９戦闘機による穂高地区の被災について』をはじめ、『戦時中の職員研修』や『戦後教育』等についてお話をいただき、現在の我々へのご示唆をいただいた。後半は委員会委員長と哲学同好会幹事長にご協力いただき　　先生の日記の読み合わせを行った。

安曇野の先人の背景にある歴史や、功績等を学ぶことにより安曇野教育にふれる意義深い一日となった。

事業推進連絡会

七月八日(月)教育文化会館にて第一回事業推進連絡会が開催された。坂槙邦章会長のあいさつの後各学校代議員による協議が行われた。

まず、五月に開催された教育会総集会を振り返った。静岡大学名誉教授の小和田哲男先生の講演会が好評だったことが報告された。また、安曇野巡検についての反省も出された。奈川渡ダムなどの見学を通して、豊かな土地を先人が開いてくれたすばらしさを実感することができ、参加者に好評であったことが報告された。

その後、参加者がグループ別に「魅力ある教育会活動について」話し合い考えを述べあっていた。

連絡会終了後には、避難訓練と清掃が行われた。避難訓練では、火事を想定した内容で避難の方法を、参会者が確認した。会館の清掃では、教職員組合執行部の先生方とともに、参会者全員で玄関や各部屋などの施設を隅々まで手を入れた。現在の美しさを保っていくことができるように、今後も感謝の気持ちを忘れず、大切に使用していきたい。

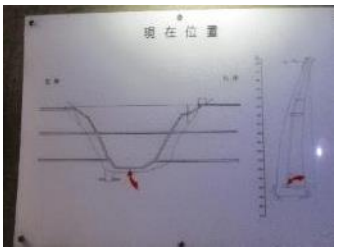
目で見て、触れて ～安曇野巡検行われる～

東京電力奈川渡ダム

六月二十九日(土)安曇野巡検が行われた。本年度は、目で見て、触れて～「郷土に伝わる願い　水を求めて」～をテーマに、バスで東京電力奈川渡ダムや梓川頭首工の見学等が行われ、企画・推進した安曇野市教育会「社会科資料集編集委員会」の先生方はじめ十六名の先生方での参加となった。

はじめに、バスの中で安曇平の地形や歴史等を千村裕一先生など何人かの先生方から教えていただき、その説明を聞きながら、梓川上流に向かった。

奈川渡ダムでは、東京電力の所長の原さんを含む五名の方から説明をお聞きした。このダムは日本で三番目に大きなダムであることや工事の様子、仕組み等を教えていただいた。エレベーターで下まで下り、電気をつけないと真っ暗、ダムの中は寒く冷気を感じたほどだった。今、ダムの真下にいることの驚きを皆で共感し、発電等さまざまな技術に感心させられた。



↑ダムの真下にいる印が示されている

↓ダムを下から見ると湾曲している

奈川渡ダムは見学可能なので、ぜひ安曇野の児童生徒も体験にどうぞと話しておられた。今、人気のダムカードもいただいた。ダムによって私たちの生活がより豊かになったことを学んだ。

奈川渡ダム見学の後、水殿ダム、稲核ダムをバスで見下ろしながら梓川頭首工の場所を見学した。ここでは、中信平土地改良区連合の丸山さん含めお二人の方に教えていただいた。赤松分水工にも立ち寄り見学した。

農業用水がどのようにしてつくられて守られているかを感じた大変有意義な半日であった。

この豊かな「安曇平・松本平」を築き上げた先人達のことを感謝せずにはいられない。

「安曇野巡検の感想」

穂高北小学校

昨年度の巡検に引き続き、二回目の参加となりました。本年度も水についての学習でしたが、昨年とは違う場所を見学できるということで、とても楽しみにしていました。

今回の安曇野巡検では東京電力奈川渡ダムの内部を見学することができました。内部は発電のために様々な工夫がされており、技術の凄さを感じることができました。

その後に見学した梓川頭首工では、発電に使われた梓川の水をせき止めて農業用水の水路に導いている様子を目の当たりにし、さらに先にある左岸幹線が安曇野の方へと流れているところを辿ってきました。安曇野の地を潤す水がどのように流れているのかを知ることができました。

川やダムを普段じっくり見る機会はなかなかありませんが、今回学べたことはとても貴重だと感じました。子どもたちにも、多くの人の努力の上に自分たちの生活が成り立っていることを伝え、故郷を大切に思う気持ちを育てていき

梓川頭首工

たいと思います。

実技講習会 開かれる

実技講習会が七月三十日（哲学は二十九日、音楽は八月二日）に安曇野市・松本市の十八会場で開かれ、のべ四二六名の先生方が熱心に学んだ。

実技講習会はその教科・分野を得意とされる講師をお招きし、講義や体験等を通して学ぶ会である。教員自身の専門教科の実技講習に限らず、興味関心のある講座を選択し受講できることから、各講座には校種・教科を越えて先生方が集まり、専門性を磨くだけでなく、交流の場としても良い機会となった。

国語

▽講師　先生
先生
先生
先生
（まつかわ落語会・風まんだら）

▼参加者数　十七名

「まつかわ落語会・風まんだら」に所属する四名の先生方を講師にお招きし、落語について学びました。

午前中は、まず講師の先生方に落語を演じていただきました。その後の講義では、落語の歴史や用語、所作などについて、未経験者にもわかりやすく教えていただきました。

午後は、二つのグループに分かれて、小噺集から自分の好きな噺を選び、実際に演じてみました。講師の先生からは「セリフを完璧に覚えることよりも、シチュエーションを描き、登場人物になりきってしゃべることが大事」など、たくさんのアドバイスをいただきました。講習後「相手を引き込む話し方や伝え方について、国語の授業にも通じるものが多数ありました」などの感想が寄せられました。落語を通して言葉の魅力を知る一日となりました。

（明南小　　）

社会

▽講師　先生
（旧開智学校　学芸員）
長野地方裁判所松本支部
職員の方

▼参加者数　二十七名

今年は、国宝に指定されることが決定した旧開智学校と、日頃なかなか見ることができない長野地方裁判所松本支部を見学し、研修を行いました。

午前中は、旧開智学校の見学をしました。旧開智学校の建築様式の特徴から、大正明治時代の教育にいたるまで、学芸員の遠藤先生の詳しく分かりやすい説明をいただきながら見識を深めることができました。

午後は、長野地方裁判所松本支部にて裁判制度の仕組みについて学んだり、実際の裁判所の見学をしたりしました。質疑応答の時間では参加者から多くの質問が出され、先生方の司法制度についての関心の高さを感じました。

歴史や公民の授業でさっそく扱いたくなるような、大変有意義な研修となりました。

（豊科南中　　）

算数・数学

▽講師　先生
（堀金中　教諭）
先生
（豊科北中　校長）

▼参加者数　十九名

午前は松永先生より「数学的に考える資質・能力を育む授業づくり」についてご講演いただきました。その中で統計ソフトを紹介していただき、それを動かしながら授業を構想しました。新しい指導内容である「箱ひげ図」を使って比較する必要感も考えながら題材を選ばなくてはいけないなど、授業について考える機会となりました。午後は濱野先生より「授業評価や家庭学習の仕方」について、実践例を紹介していただき、算数・数学を通じてどのような児童・生徒を育てるのかを考えていきました。各校の家庭学習の様子について意見交換をしながら、どのようにしたらよいか話は尽きませんでした。

（穂高西中　　）

理科

▽講師　先生
（信州大学教育学部准教授）

▼参加者数　二十名

本年度は信州大学の坂口先生をお迎えして「科学的な見方・考え方―生物領域を中心に全領域で考える―」をテーマに講習をしていただきました。

『地球上に、南に千km、東に千km、北に千km進んだときに、元の位置に戻る地点はあるか？』、『メンフクロウが暗闇でも音によって獲物の位置を特定できるのは、どのような感知、計算をしているのか？』など、問題演習を通じて、科学的な見方や考え方には、理科の知識だけでなく、数学など他教科の知識も関連付けて考えることが必要になることを学びました。日々の授業の中にも是非、取り入れていきたい視点だと思います。

（三郷中　　）

音楽

▽講師　先生
（元暁星小学校　教諭）

▼参加者数　三十名

「白ひげ先生」として、合唱指導で全国的にご活躍されている蓮沼勇一先生を講師にお迎えしての学びも今年で三年目となりました。

午前中は三郷小学校、午後は三郷中学校の合唱部のみなさんをモデルに、響きのある発声の方法や、表現の仕方、楽譜の読み取り方や伴奏と歌の関わり方など、多くのことを学ばせて頂きました。

蓮沼先生のアドバイスを吸収してぐんぐん上手くなっていく合唱部の皆さんの響きに目を見張り、少しの音の揺れや響きの位置の違いで音楽性ががらっと変わることに驚きました。

講習後「久しぶりに合唱の世界にたっぷりとひたることができ、本当に充実した時間を過ごすことができました」「文化祭のクラス合唱にむけて合唱の楽しさを伝えられる指導をしていきたいです」などの感想が寄せられました。合唱の楽しさを参加者全員で共有できた素晴らしい一日となりました。

（明南小　　）

図工・美術

▽講師　先生
　　先生
（穂高陶芸会館）

▼参加者数　十五名

昨年度の陶芸体験が好評であったことをうけ、本年度も図工美術講座は穂高陶芸会館にご協力いただき、「世界に一つだけの陶芸」を開催しました。

最初に、手びねりによるカップやたたらによるお皿の作り方を師範していただくと、見事な作品が目の前にできあがりました。その後、それぞれの作陶に入ったものの、なかなか講師の先生のようにはいかず、最初は薄くしすぎて穴を空けてしまったり、縁をきれいに削れなかったりという姿も見られました。しかし、粘土と向き合い、何度も繰り返すうちに、「こうすればいいのか」という気づきにつながり、制作に没頭していきました。それぞれが世界に一つだけの素敵な作品を作ることができました。

陶芸会館では本焼きまで行って仕上げていただけます。完成まで約一ヶ月。仕上がる作品が楽しみです。

（穂高北小　　）

保健体育

▽講師　先生（三郷小）
　　先生（穂高東中）
　　小田俊一先生
（JACOT専門指導員）

▼参加者数　二十六名

午前中の研修では、三郷小の先生より『体つくり運動（小学生対象）』『器械運動』の領域を、穂高東中の児玉先生より『体つくり運動（中学生対象）』『武道（剣道）』の実技伝達をしていただきました。両先生とも、実演を交えながら丁寧に分かり易く教えていただき、大変参考になりました。

午後は、JACOT専門指導員の小田先生を講師としてお迎えし、『授業に取り入れてみよう！コーディネーショントレーニング』というテーマでコーディネーショントレーニングの理論や動きのポイントを講義や実践を交えて指導していただきました。午前午後ともに授業改善、参加者の健康増進につながる有意義な講習となりました。

（豊科南小　　）

技術

▽講師　小林健男　先生
（有限会社　コバヤシ造形堂）
　　内野一太　先生
（株式会社　アーテック）

▼参加者数　十四名

「令和時代を拓くプログラミング学習～小学校のプログラミング学習から中学校の計測・制御プログラムへ～」と題し、全国的に教材を卸している講師の先生から売れ筋の教材を紹介していただきました。実際に教材を活用してプログラミング教育の楽しさを体感したり小中九カ年を見通した実践を考えたりもでき、小学校のプログラミング学習から中学校の計測・制御プログラムへのスムーズな連結が模索できた研修会となりました。赤外線フォトリフレクターを使用した衝突回避カープログラムでは、苦労しながらも参加者全員が楽しくプログラムしコースを走らせることができました。

（三郷中　　）

家庭

▽講師　北林智紀　先生
（食事処美田オーナーシェフ）
　　堀込明紀　先生
（長野県青少年赤十字指導者協議会顧問）

▼参加者数　十九名

午前は、ドライトマトや旬の地域食材を用いた調理を教えていただきました。ご当地グルメである安曇野林檎ナポリタンにも挑戦し、おいしくいただくことができました。

午後は、防災啓発プログラムのひとつである、避難所体験ゲームを通して、災害が起きたときのことを想定しながら防災について学ぶことができました。

一日を通して、日頃の授業で実践できる内容も多く、充実した研修となりました。

（三郷中　　）

道徳

▽講師　田野口弘　先生
（松本大学基礎教育センター）
▽実践発表　荻原　忍　先生
（附属松本中）

▼参加者数　十名

「子供が心待ちにする道徳の授業づくり」をテーマに田野口先生より講義・演習をしていただき、荻原先生からは「ポートフォリオを活用した継続的な評価」について実践発表をしていただきました。

模擬授業では、児童生徒の気持ちになって考え、発言し合うことで道徳の授業の基本を体感しました。実践発表からは、スケッチブックを活用したポートフォリオが自己評価や授業評価につながることを教えていただきました。演習では、「手品師」を資料に中心発問と価値を深める発問を検討し、授業作りを体験しました。

真剣に意見交換ができ、充実した講習会となりました。

（穂高東中　　）

生活・総合

▽講師　ＪＡあづみ女性部の方々

▼参加者数　二十七名

ＪＡの方々に多くのことを準備していただき、午前中は豆腐作りをしました。六グループで調理をしましたが、一グループにお一人ずつ講師の方がついてくださるので楽しくお話ししながら安心して作ることができました。二年生担任の先生は、これから行う生活科のヒントをたくさんもらっていました。午後は雪花菜まんじゅうと、なすのまんじゅうを作りました。まんじゅうとおやきのルーツのお話を聞きながら、作っていきました。

豆腐もおまんじゅうもおいしく、とても有意義な一日を過ごしました。また、子どもたちを学校だけではなく地域でも支え合っていこうとするＪＡの方々の想いも知り、大変ありがたく思いました。

（穂高南小　　）

哲学

▽講師　西村拓生　先生

（奈良女子大学文学部教授）

▼参加者数　六十一名

西村拓生先生を講師にお迎えして三年目の哲学研修講座が行われました。

今年度も木村素衛先生が執筆された「表現愛」をテキストにして読み合わせを中心に行いました。午前は、木村先生についてお話をお聞きし、午後はテキストの読み合わせを行いました。難解な文ですが、グループの先生方で順番読み進め、文章を教育に結びつけ、先生方の考えを交換できました。西村先生が疑問を丁寧に解説してくださり、理解を深められました。

私たち教師が、子どもの表現をどうとらえるべきかを知り、さらに教師観を考えていきたいと感じられた貴重な研修会になりました。

（明科中　　）

人物誌

▽講師　原　明芳　先生

（豊科郷土博物館館長）

財津達弥　先生

（市教委文化課　博物館係長）

▼参加者数　十七名

本年度は「安曇野市パイロット物語～二人の違った人生～」というタイトルで、　館長から「安曇野で育ち、沖縄に散った特攻隊員上原良司の人生」の講義、　係長から「神風号でロンドンまで最速飛行　飯沼正明飛行士の人生」の二つの講義をお聞きしました。

当時長野県は教育県で大学生も多く、学徒動員により全国で五番目に特攻隊員を排出しました。

穂高有明の有明医院の三男として生まれた上原良司は、慶応大学在学中に特攻隊員として動員され、若い命を落としました。

うって変わって、飯沼正明飛行士は、朝日新聞社記者で、昭和十二年、東京～ロンドンを日本製の「神風号」を操縦、約九十四時間（約三日半）あまりで飛行、世界新記録を樹立した英雄です。

午後は豊科細萱にある生家の

「飯沼飛行士記念館」に行き、館長さんから、くわしくお話をお聞きしました。たった八年の差で、片や英雄、片や人知れず海に散った兵士、その時代の変化の激しさと軍国主義のすさまじさを感じた一日でした。

（豊科北小　　）

英語

▽講師　松本城英語ボランティアの方々

宮澤美帆子　先生（堀金中）

両角明浩　先生

（阿智村立第二小）

伊藤雄希　先生（堀金小）

▼参加者数　十九名

本年度は体験的な講習にできればと考え、外に足を運んでお話を聞いたり、模擬授業を交えた演習をしたりしました。午前の部では、実際に松本城へ行き、英語ボランティアガイドの方々の説明を英語で聞きました。お堀（moat）や火縄銃（musket）など専門用語を英語で聞いたり、歴史に関するクイズに英語で答えたりして、外国人観光客の目線で参加することができました。ガイド終了後はサポートセンターに移動し、ガイドの方々と地域素材の魅力や今後の国際理解教育について意見交換を行いました。

午後の部では、三郷小にて明日に活きる授業の紹介や、教材を学校間で共有するための方法についての説明がありました。講師の方々の工夫された実践の様子を参加者全員で共有できた有意義な時間になりました。

一日を通し、英語教育の未来を考えることのできる充実した講習となりました。

（堀金小　　）

学校保健

▽講師

寺島裕美　先生（寺島生花店）

金子能呼　先生

（松本大学松商短期大学部商学科）

▼参加者数　三十五名

午前は、寺島先生を講師に、フラワーアレンジメント作りを行いました。花や緑に囲まれて心豊かな生活を楽しみ、自分でアレンジすることでお花の楽しみ方を学びました。皆さんそれぞれのアレンジメントができました。

午後は、金子先生を講師に、マーケティング実践講座をお聞きしました。色のもつ意味や効果、活用について具体的な企業を取り上げながらマーケティングについて伺い、教育現場で活用できる色のメッセージについて学びました。

（三郷小　　）

特別支援教育

▽講師　熊井秀夫　先生

（明科木彫教室会長）

平林　栄　先生

（ビューホテルレストラン支配人）

片岡啓之　先生

（NPO法人夢の実かえで　所長）

▼参加者数　二十七名

午前は熊井先生から、葉っぱのモチーフの彫り方を丁寧に教えて頂きました。丸みを帯びた葉の感

じを出すのが難しかったが、集中してあっという間に時間が過ぎました。

昼食は希望参加で「和食のマナー講座」を行いました。箸や食器の持ち方から食べる順番まで、一生の宝になる内容でした。

午後は、安曇野に障害者のための通所施設を作る会の方から、施設見学と施設設立までの経緯を伺いました。養護学校を卒業した生徒がその後どのように仕事をしているのか、実際に見ることができ、とても勉強になる時間でした。

（明北小　　）

情報教育

▽講師　和田　勉　先生
（長野大学教授）
エプソン販売株式会社
広島県教科用図書販売株式会社
ラインズ株式会社
▼参加者数　十八名

プログラミング学習が始まる小学校の先生方から「パソコンを使わずにプログラミング学習をしたい」という要望が多かったため、和田勉先生からアンプラグドと呼ばれる研修を受けました。

午後は情報モラル学習教材の体験を通して、児童・生徒が巻き込まれがちなトラブル事例について学習をしたり、パソコン室やタブレット、更には家庭でも同じアカウントで利用できる学習ソフト「eライブラリアドバンス」というソフトを体験したりしました。

新しい事を学ぼうとする先生方の意欲溢れる時間となりました。

（豊科北中　　）

教育相談

▽講師
中井一裕　先生
（放課後等デイサービス　燈）
小林千里　先生
（穂高北小学校　まなびの教室）
丸山秀子　先生
（穂高北小学校　ことばの教室）
宮原文夫　先生
（穂高東中学校　まなびの教室）
丸山直子　先生
（岡田小学校　あさひ分校）
▼参加者数　二十四名

安曇野市内、松本市の子ども支援を行っている施設や教室を訪問し、運営概要や子どもたちの様子、支援者の願いなどをお聞きしました。子どもや保護者の願いを聴きながら、支援をしていく姿勢に感銘を受けました。安曇野市や市周辺にある資源を知ることができ、有効に活用でしていきたいと思いました。学びの多い一日となりました。

（穂高東中　　）

東西南北

〝我が家〟の語り部

八月は、広島や長崎の平和記念式典、全国戦没者追悼式典などがあり、戦争関連の新聞記事、テレビ番組も多く、平和について考え、深い祈りにつつまれます。

我が家では、戦争当時小学生だった父母が、いろいろな話をしてくれます。私の息子が小学校六年生の時、歴史の授業で〝語り部〟として話をしたこともあります。

お米が不足して配給のさつまいもや大豆が入ったご飯を食べたこと、親戚でお米をもらった帰りにサーカスを見ていたら、袋が破れてお米がこぼれてしまい、「警察官に見つかったらたいへん！」と、逃げるように帰ってきたこと、空襲に備えて夜も普段着で寝ていたこと、空襲警報で防空壕に逃げ込んだ時、怖くて体の震えが止まらなかったこと、畳職人の祖父が軍の命令で松代大本営の仕事をしていたことや工事に朝鮮の人たちがたくさん働いていたこと…等々。

「夏の日を何度も何度も七十年」高校生が詠んだ「平和の俳句」です。戦争体験や思いが子どもや孫に語り継がれ、みんなが戦中の当事者となります。平和を分かちあえるひとときです。

（豊科東小学校　　）

郷土の文化財 44

さて　誰の書でしょう

郷土文化財センターに数多くある書の額から、今回は一点選んでみました。さて、どなたが書かれたものでしょう。

「天成」・・・私は初めて聞いた言葉です。広辞苑を引くと「①人力によらずに自然にできあがること。天然自然なこと。」「②天性。」とあります。

正解は教科書にも出てくる有名な哲学者、「西田幾多郎」の書です。平成十三年七月七日木村素衛を偲ぶ会の折に寄贈された、とのことです。立派な学者とつながっている安曇野の先人たちです。

（郷土文化財センター運営委員会）

編集後記

本号では、実技講習会の様子を掲載しました。その報告内容や写真を拝見すると、それぞれの講座で先生方が夢中になり楽しんで参加されている姿が伝わってきました。その講座に参加した先生に様子を詳しく教えていただきたいようにも感じます。これからの教育現場に、あるいは生活にいかしていけたらと思います。